

つなぐ「しが木育」指針 概要版



令和5年4月策定

本指針の位置づけ

本指針は琵琶湖森林づくり基本計画(第2期)における具体施策の基本的な方針として位置づける

第1章 木育に取り組む背景

- 滋賀の森林**
第72回全国植樹祭を契機として「伐って、使って、植えて、育てる」という森林循環のサイクルを推進していくことが重要である
- 森林の役割**
本県の森林は、琵琶湖の水源涵養をはじめ、県土の保全、生物多様性の保全、地球温暖化防止、木材等の物質生産といった多面的な機能の発揮を通じて、県民の生活に様々な恩恵をもたらしている
- 滋賀の木づかいの文化**
本県には長い間自然との関わりの中で育んできた木づかいの文化がある
- 既存計画との関連**
 - 琵琶湖森林づくり基本計画(第2期)
あらゆる世代へ木育を推進し、森林の重要性や県産材利用の意義への理解を広める
 - 第四次滋賀県環境学習推進計画
多面的な機能をもつ森林づくりがされる社会の実現にむけた環境学習を推進する
- 国や都道府県の取組状況**
 - 国の取組…「森林・林業基本計画」の中で木育の推進を明記している
 - 都道府県の取組…北海道をはじめ多くの県がそれぞれの木育に取り組んでいる
- SDGs等の達成に向けた取組**
 - SDGs…ゴール4、6、12、13、15の達成に貢献
 - MLGs…ゴール3～10、13の達成に貢献

第3章 滋賀県の木育…つなぐ「しが木育」

1 滋賀県における木育

つなぐ「しが木育」…子どもから大人まであらゆる世代が、木とふれあい、木に学び、木と生活することにより、暮らしと森と琵琶湖のつながりを理解し、豊かな心を育む取組

2 つなぐ「しが木育」で目指す姿

本取組を通じて、木の持つ癒しやぬくもりを感じ、健康で快適に暮らすとともに、「やま」や森林に関心や慈しみを持つことにより「やまの健康」
・「健康しが」が実現されている
また、滋賀の木づかいの文化や、森川里湖のつながりが健全な姿で次の世代に引き継がれている

3 つなぐ「しが木育」の展開

- 体験する**
木や森林を五感で感じて木に愛着をもつ
- 理解する**
木・森林、生き物・自然、水のつながりなどについての知識を得て理解する
- 行動する**
体験して理解したことを踏まえて行動する

木育のすすめ

～木育活動の「さしすせそ」～
さ 触ってみよう木のおもちゃ
し 知ってほしいな滋賀の森林
す 好きになってね木製品
せ 生活に活かそう木の魅力
そ 育て守ろう木の文化



第2章 滋賀県のこれまでの木育に関連する取組と課題

- 滋賀県のこれまでの木育に関連する取組**
 - 森林環境学習「やまのこ」(H19～)
県内の小学4年生が森林で体験活動
 - 木育のスタート(H22、H26～30)
木育フォーラムの開催と木育の実践
 - ウッドスタート支援(H27～H30)
乳幼児等に木製おもちゃを贈呈する市町を支援
 - ウッドスタート宣言(H28)
森を守り育てる循環型社会の構築を目指す
 - 木育イベントの開催(H30～)
県内各地で木育製品にふれあえるイベントを実施
 - 木育製品の貸出(R2～)
県内の希望する施設に木育製品を貸出
 - しが自然保育認定制度(R2～)
森林環境学習のすそ野を広げる
 - 木育講座の開催(R3～)
木育への理解を深めるための講座を開催
 - 木育ビジネス化への支援(R3～)
継続して木育に取り組む団体への支援
- 滋賀の木育の課題**
 - 木育に関わる人の連携
人の職種・立場により木育の捉え方が異なる
 - 木育の認知度の向上
木育に対する認知度が低い
 - 森林や木の文化とのつながり
木とのふれあいに留まらず、森林や木の文化への関心や学びにつなげることが必要
 - 木育の伝え手の育成
木育を支える伝え手が少ない
 - 木製品を生活に取り入れる
時代とともに生活の中の木の製品が少なくなっている
 - 市町および民間との連携
市町との連携や民間主導での継続的な取組が必要

第4章 つなぐ「しが木育」の3つの柱

1 つなぐ「しが木育」で取り組む3つの柱

- 「しが木育」を推進する人づくり**
 - 木育講座の開催
 - 木育人材登録制度の創設
 - 木育に関わる人の連携
- 魅力あるモノづくり**
 - 品質や安全性に優れた木製品づくりへの支援
 - 木製品展示会等への出展
 - 利用者の意見のフィードバック
- 木に親しむ空間づくり**
 - 木育イベントの開催
 - 木育製品の貸出・導入
 - 拠点となる木育施設の整備・発信

2 3つの柱を進めるために

- 多様な主体との連携**
木育の取組内容の充実や情報発信を図るため、多様な主体が連携する仕組みづくりを行う
- 民間活力を活かした取組**
企業等の参画を促進し、民間活力を活かすことで、木育の持続的な活動につなげる

